第２回　南部地区街づくり協議会　議事録（要旨）

１．開会あいさつ（並河市長）

２．議　事

【南部地区活性化プロジェクトの概要説明】
　資料に基づき、会長より南部地区活性化プロジェクト案について説明。

【以下、委員の発言要旨】
○トレイルセンターでの物販開始について、数年前に問い合わせた際には国・県の補助を受けている関係で、物を売ることはできないと聞いている。

○県との協議については、概ね（物販をすることが）可能だろうという段階。当時は“場所貸し”による農産物の販売や市のノベルティ等を置くような方向で検討していた。

○柳本の農協前で月２回朝市をやっているが最近は運営が厳しい。せっかく地元の農家が続けてきたイベントなので、トレイルセンターの物販と一緒にできる方法があれば検討してもらいたい。

○天理駅前で行う県予算の“マルシェ”において、南部の農産物をうまくつなげていければと思う。

○現在休止中の千燈会では雅楽の披露もあって雰囲気が良かったので、県の音楽祭と連携するのはよいと思う。

○柳灯会は公民館で活動されている方の発表の場としての側面もあり、発表を楽しみに活動をされているのでその場をなくすわけにはいかない。

○外部向け・地元向けに時間帯分け、ターゲットを分けていくのも一案。

○トレイルセンターでの物販に向けて棚の配置や構造のことも整理しなければならないと思う。また、物品をただ寄せ集めるだけではなく、一目で“天理”をイメージできるようなロゴマークやカラーなどを出していければよいと思う。
　中長期では、核となるコンビニと提携して物販等を行えば、そこからネットワークとして拡大していけるのでは。
　誘客手段としてターゲットごとに有効な手段を打っていく必要がある。例で介護旅行が挙がっているが、沖縄でも車いすの方が海にいけるようなサ

ポートのあるツアーがある。

○奈良から明日香へ行く過程において、バスを止めて休憩できる場所は極めて少ない。休める場所・買える場所として天理の南部はかなりよいポイント。黒塚古墳の駐車場は有力な候補であると思う。
　誘客手段について、今後は企業を巻き込んだ形でＰＲしなければ、裾野を広げていくことは難しい。介助が必要な方に喜びを感じてもらえるような仕組みを、企業・NPO やボランティアと一緒に作っていかなければと思う。

○呉の海上自衛隊との連携については、当時（6 年ほど前）協議いただいた方々に再度話を持っていってもよいし、協議会としてよければ奈良の地方連絡部に話をつないでもらえるように連絡を取る。

○8 月 7 日の御魂祭には、全国から（戦艦）大和にゆかりのある方が参拝されるし、呉から大和ゆかりの桜の苗木をいただいて植樹した動きもある。

○戦争・戦艦大和のイメージが強く押し出されているが、本来は水の神様を祭る神社。奈良盆地は昔から水不足であったため、大和神社には水の神様が祭られており、水が流れる東から西へ向けて参拝するということが本来的ないわれではないか。

○（柳本朝市の経営難について）街の購買力が低下してきているのが原因と思われる。農産物は沢山あり、売れれば農家も出品するが、高齢化により買い手が少なくなっている。地元のお年寄りが老人カ―を押して買いに来てくれてはいるが。

○コンビニを活用するのはよいと思う。チェーンとして連携できれば非常に大きな効果が期待できる。地区の農産物を旬ごとにＰＲしていくことも必要。

○新たに施設を設けるのはコスト面・収益面で難しい部分が多いと思うので、既存との連携が必要かと思う。品数が多いことも大切だが、そこでしか買えないような物と他のコンテンツが組み合わさっているかが重要。

○サイクルスポット整備について、ロードバイクの写真があるがどのような層をターゲットにしているのか。天理のトレイルセンター単体としてのＰＲだけでなく、桜井・田原本と協力し一体的なＰＲを進める必要があると思う。

○様々なターゲットが想定されると思う。明日香では一般的な自転車で周遊されている方も多いし、ロードバイクの方であればスタンドが必要になる。パンク修理キット等を配備し、拠点としてのＰＲを行いたい。また、他市と連

携して「大和の源流」ＰＲを進めていき、コース設定・アプリ・案内看板等、統一感を持った整備を検討したい。

○一目で見て、コースごとの距離や所要時間がわかるような案内をすれば、自分に合った観光をより多くの人が楽しめるのではないか。

○大和神社について、天照大神と同位の日本大国魂大神を主祭神とする由緒等、大和神社本来の歴史的なゆかりを重視すべきではないか。

○古墳で推せば天理が一番ではないかと思うので、古墳を前面に出した観光の提案をしてはどうか。

○南檜垣営農組合では、田んぼの生き物調査というイベントを実施しているが、市内・市外の参加者も年々増え、「山々に囲まれた風景・自然がよい」という意見が多い。そういった景観の良さもＰＲしていければよいのでは。

○景観の良さも天理の資源の一つであると思う。季節によって様々な場所に写真を撮りに来られている姿をよく見かける。

○古墳については、まさに天理駅前のデザインイメージと重なってくるところ。駅前のＰＲの根拠として南部地区の古墳群をＰＲできればと思う。
　景観について、いくつかスポットを決めて、大和盆地の風景を楽しみながら農業ができるという高付加価値化の発信を行いたい。また、季節ごとのビューポイントを整理して紹介し、フォトコンテストなど何度も訪れたくなるような仕組みを検討しなければならない。

○織田藩の鎧の話題があったが、市内県内向けにはよいとしても、全国的なＰＲに向けては厳しい部分があると思う。来年は立藩 400 年であるので、恒常的にＰＲしていくことのできる仕組みを考えなければならない。

○資料の中で「食の魅力」というキーワードがあるが、商工会として今度のじゃんじゃん市で天理の食に関するグランプリの実施を計画している。何か連携できるようなことがあればよろしくお願いしたい。

○県外から来られた方に「土産物には何を買って帰るのがいいか」と尋ねられた際、加工品・柿・イチゴ等もいくつか考えられるが、季節物ということもあり“天理の土産”として勧めやすいものが少ない。
　また、大和王権・邪馬台国の発祥の地ではないかということをもっとＰＲしていけないか。

○土産物・特産品開発については、事業者を公募し、総合的にプロデュースする事業を是非進めていきたい。全国的にも取り上げられるような商品を作るには、行政も一緒になって進めていかなければならない。

邪馬台国等のＰＲについては、それぞれの市が個々に発信しているような状況なので、連携して短期プロジェクトとして取り組んでいく。

○観光地で賑わっている所に共通するのは、交通・宿泊・食・案内・土産が、規模は別にして充実している。

将来の土産物を作っていくのであれば、豊富な農産物を四季折々定期的に宅配する「ふるさと便」をやってはどうか。

また、奈良県中南和地域の観光客の多くが車で移動しているが休憩する場所が少ない。黒塚古墳の辺りに道の駅ができ、旅行事業者に認知され１日に1,2台でも観光バスが止まれば、必ず賑わいにつながると思う。

中・長期の項目にイベント強化があるが、象徴的なイベントをやることで開催者・参加者も地域に入ってくる。

【本日のまとめ】（並河市長）

○今日いただいたご意見を基に、プロジェクトとして誰が関わって何時までに何をするかの工程表を作る作業を事務局でさせていただきたい。また、詳細な事項については個別に各委員に相談させていただきながら、具体的な作業を進めていきたい。

次回からは、各プロジェクトの進め方、全体の整合を取っていくということを念頭に進めていきたい。

３．次回の日程

次回第３回協議会は８月下旬に予定し、後日、日程調整を行う。

４．閉　会　－16：30－

以　上